



自然遊学館 だより



ベルグウミウシ (体長 4mm)

2020年4月16日、二色の浜突堤横にて高橋館長がプランクトンネットを引いた際、海藻の紅藻類にくっついて採集されました。貝塚市では初記録となりますが、ウミウシ研究者として知られた故濱谷巖先生が、本誌50号で本種に触れられ、今では泉州で採れなくなったことを記していました。

2020 SUMMER

No.96



2020.8.5 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーレポート

五月に出会ったサツキハゼ

…………… 森 彩華・山田浩二 ……1

大阪府で産出した

注目すべき干潟の貝類 I …………… 大古場 正 ……2

ヨツモンカメノコハムシ …………… 河添純子 ……3

*泉州生きもの情報

クシヒゲムラサキハマキ (ハマキガ科) とイワタバコ

…………… 岩崎 拓 ……4

阪南市でのトゲナシヌマエビの記録

…………… 山田浩二・河添純子 ……6

イソハエトリ …………… 岩崎 拓 ……7

*館長コーナー

新型コロナウイルス対策など …………… 高橋寛幸 ……7

*自然生態園コーナー

トンボの池のスゲ …………… 湯浅幸子 ……10

*調査速報

千石荘昆虫調査2019 …………… 岩崎 拓 ……11

*寄贈標本 …………… 12

*スタッフ日誌 …………… 16

*お知らせ …………… 16

◆ ネイチャーレポート

五月に出会ったサツキハゼ

とてもいい天気です。少し汗ばむくらいの暑さの5月2日、近木川河口のカキ殻があるいくつかの地点で、見たことのない細身のハゼの群れを見つけました。体は淡い黄緑色で、光が当たると頬が青く輝きます。体の側面には、目から尾まで黒い線が通っています。調べてみるとクロユリハゼ科のサツキハゼという種類であることがわかりました。5月に多くみられるから“サツキ”ハゼなのか、と思いきや、道津(1956)は『体色が5月の新緑を偲ばせるところから、サツキハゼという和名を新しくつけた。』と述べています。風情ある名前ですね。少し難しい話になりますが、このとき道津(1956)はサツキハゼを学名 *Parioglossus taeniatus* Regan, 1912 (後のコマチハゼ) として報告しました。その後富山(1958)は鱗の形態等の違いから新種 *P. dotui* Tomiyama, 1958 とし、道津氏へ献名しました。

“ハゼ”と聞くと水底でじっと過ごしているイメージをもたれる方も多いかと思いますが、サツキハゼは中層を群れるハゼで、小さな動物プランクトンや仔魚などを泳ぎながらパクパクと食べます。カキ殻を巣にして産卵もカキ殻内にするようです。

太平洋側では千葉県以南に分布していますが、大阪府内ではこれまで、新野大氏による二色の浜の記録(山田, 2006)と、きしわだ自然資料館に保管されている岸和田市木材町で2016年12月2日に採集さ

れた1個体の標本記録のみでした。自然遊学館の調査で、加えて近木川河口で採集されたのは今回が初めてです。採集したのは3個体(全長各々31.5 mm、29.5 mm、29.0 mm)で、自然遊学館の所蔵標本(KCMN-P575)として保存しました。

その後、同地点で5月23日に1個体を採集、また6月8日にもいくつかの群れを確認し、13個体を採集しました。自然遊学館の海水魚水槽にてサツキハゼを展示しているので、すいすいと泳ぐ美しい姿をぜひ見に来てくださいね。



サツキハゼ (2020年5月2日採集・撮影)

謝辞

調査に同行して頂いた河野通浩氏、サツキハゼの学名の経緯について、ご助言頂きました高田雅彦氏にお礼申し上げます。

引用文献

- 道津喜衛(1956) サツキハゼ(新称)の生活史. 九州大学農学部学藝雑誌. 15: 489-496.
 富山一郎(1958) サツキハゼ in 富山・阿部. 日本産魚類図説. 57: 1179-1182.
 山田浩二(2006) 2004 夏期特別展「二色浜の生きものたち」. 貝塚の自然. 8: 134-137.

(森 彩華 (大阪府立大学大学院)・
 山田 浩二)

大阪府で産出した注目すべき 干潟の貝類 I

大阪府下の干潟の貝類相調査をしている過程で興味深い貝類が得られたので今号と次号に分けて報告する。

ツブカワザンショウ（カワザンショウガイ科）

Assiminea estuarine Habe, 1946

大阪府大阪市此花区西島・淀川河口左岸、
2012年4月9日、殻長 3.0 mm、殻幅 2.5 mm



府下にはカワザンショウガイ類が複数種産するが最も小形であり見過ごされてきた。大阪湾・湾奥部に位置する淀川河口左岸の干潟で潮間帯上部の転石帯に重なる石の下から多数の生息個体を確認した。殻は3mm前後と小さく球状で丸く臍孔がある。2014年6月7日同市西淀川区西島・神崎川河口左岸矢倉海岸でも本種を確認した。大阪府レッドリスト(2014)では絶滅。

カワアイ（キバウミニナ科）

Pirenella pupiformis Ozawa & Reid in
Reid & Ozawa, 2016

大阪府男里川河口右岸、2017年3月22日、

殻長 32.3 mm、殻幅 12.1 mm



これまでにこの泥干潟ではウミニナ、ヘナタリ（北藤, 2007）、ホソウミニナ、フトヘナタリの生息が確認されているがカワアイは見つかっていない。滞筋の泥の上を匍匐する姿が2個体観察された。大阪府下では泥干潟は限定的であり泥地を好む本種が新たに発見されたことは学術的に貴重な情報となる。その後2020年6月21日岬町多奈川谷川・谷川古港にて泥上を這う個体を複数確認したので追記する。殻は焦げ茶色、格子目状の彫刻があり縦張肋は弱く縫合がある。殻口の張り出しが弱い。

大阪府レッドリスト(2014)では絶滅。大阪府の過去の記録では石田ほか(2014)で樽井産標本1958年採集(梶山彦太郎コレクション)がある。近隣では兵庫県加古川河口、和歌山県日高川河口・田辺湾内之浦で筆者は確認している。

タケノコカワニナ（トウガタカワニナ科）

Stenomelania rufescens (Martens, 1860)

大阪府岬町西川河口左岸2015年5月7日、
殻長 34.3 mm、殻幅 13.3 mm



2010年近木川河口で幼貝1個体(山田・岩崎, 2012)、2015年近木川河口にて幼貝2個体(山田ほか, 2016)が採集されている。男里川河口に産することは以前報じた(大古場ほか, 2014)がその後、岬町落合川河口で本種の死殻を背負ったヤドカリを見つけたことをきっかけに、上流部を調査したところ西川左岸の芦原内にて2個体の生息を確認した。

周辺をくまなく探したがその後も追加個体は得られなかった。干潮時芦原内は水たまり程度の水深で泥上を這っていた。イシマキガイやカワザンショウガイが同所で見つかり男里川でも同種があり、ほぼ変わらない生息環境であった。芦原の規模が川幅に対して狭く脆弱で見つかった個体数からして新規加入して間無しだったのかもしれない。尚、近年施工された国土強靱化計画の河川掘削工事により産地は消滅した。府下で3番目の産地となる貴重な生息情報として記す。大阪府レッドリスト(2014)では絶滅危惧I類。

引用文献

石田 惣・山田浩二・山西良平・和田太一・渡部哲也(2014)自然史研究3(15)237-271.

北藤真人(2007)男里川河口で見つかったヘナタリとウミニナについて. Nature Study53(2):2-3.

大古場 正・北藤真人・石田 惣(2014)男里川河口に生息するタケノコカワニナ. NatureStudy60(12):2-3.

大阪府(2014)「大阪府レッドリスト2014」48pp.
奥谷喬司(編著)(2017)日本近海産貝類図鑑【第二版】1375pp. 東海大学出版部.

山田浩二・岩崎 拓(2012)近木川の水生生物(2010年度調査). 貝塚の自然第14号:20-26.

山田浩二・和田太一・児嶋 格(2016)近木川河口のタケノコカワニナ. 自然遊学館だより No. 78:1-2.

(松原市 大古場 正)

ヨツモンカメノコハムシ

2020年5月10日13時ごろ、散歩で、清児のサンシティ前から平成大橋を渡ってすぐの近木川沿い上流側の遊歩道に入ったところで、リュウキュウアサガオの葉にとまっているジंगाサハムシに似た甲虫を見つけました。

葉の上で交尾中で、近くには食痕と思われる穴もたくさんありました。写真を撮ってFacebookにあげたところ、複数の方からヨツモンカメノコハムシ *Leccopectera quadrimaculata* という分布拡大中の外来種(国内外来種)だから報告しておくべきだと指摘をいただきました。サツマイモの害虫として知られているそうです。



ヨツモンカメノコハムシ
(貝塚市橋本、2020年5月21日撮影)
この日、撮影と採集をしに現地を訪れ、
3個体を自然遊学館に寄贈しました
(体長約8mm)。

外来昆虫の調査をしておられる、大阪市立自然史博物館の初宿成彦学芸員に、写真を添えてメールをしたところ、大阪府では南港以外にまだ確認地はない、という返事をいただきました。初宿学芸員のホームページ『しやけのドイツ箱』の中の外来種に関する情報をまとめたページによると、「東南アジアなどに広く分布し、国内では南西諸島に自然分布していたヨツモンカメノコハムシは、九州、四国、に次いで本州でも見つかри始めています」という説明があり、和歌山県と三重県での確認地も掲載されていました。

サツマイモを含むヒルガオ科の植物（アサガオ、ヒルガオ、ハマヒルガオ、リュウキュウアサガオ、ソライロアサガオなど）を摂食するそうで、分布を広げる可能性は大いにあると思います。

引用サイト

『しやけのドイツ箱』 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/shiyake/shiyake.html>

自然遊学館のスタッフと行った調査では、貝塚

市の他に、堺市、和泉市、岸和田市、熊取町、泉南市、阪南市、岬町で見つかり、初宿学芸員のヨツモンカメノコハムシのページに情報を提供しました。(7月31日までの記録)

(貝塚市 河添 純子)

泉州生きもの情報

クシヒゲムラサキハマキ(ハマキガ科) とイワタバコ

本誌85号に「イワタバコ1」という原稿を書いてから、どうして「2」が出ないのだろうと不思議に思っている方は、幸か不幸か、一人もいないと思います。近木川上流に生えているイワタバコ *Conandron ramondioides* の葉を摂食しているのが何か分からないまま、3年が過ぎてしまいました。まだ、食っている現場を押さえていませんし、イワタバコ専門の植食者が見つかったわけではないのですが、広食者がイワタバコの葉を摂食することが分かった1例を報告します。

2020年5月15日、近木川上流の本谷林道において、イワタバコの葉が1枚、縦に巻かれてぶら下がっているのを見つけ、開いてみると蛾の幼虫が1個体いました(図1)。これまで、イワタバコの葉で、このような「巣」を見た記憶はありません。そのまま持ち帰りプラスチックケースに入れ、次の日の朝、そのイワタバコの葉が食われているのを確認しました(図2)。5月19日に新しいイワタバコの葉を入れると、それも摂食しました。その時に分かったこと

は、のろまな幼虫ではなく、「気に入らない」とミミズのように体をくねらせて暴れることです。それから餌用に何回か葉を入れ替え、糸を吐いて発見時のような巣をつくることも確認しました。



図1. イワタバコの葉を巻いていた幼虫
(体長 14mm)



図2. イワタバコの葉の食痕

5月29日に入れた2枚の葉を重ねるようにして別の形の住処をつくってから「動き」が止まり、6月9日にハマキガの成虫が羽化しました。自宅で飼育したので、その間の気温 18.6℃～28.4℃だけしか飼育条件を記録していません。蛹化日も葉の中でのことなので、正確には分かりません。羽化したガは、これまで自然遊学館に3個体の標本があるハマキガ科のクシヒゲムラサキハマキ *Terricula violetana* でした(図

3)。濃い紫色の地色の前翅に、光沢のある星のような斑紋がちりばめられているのが特徴です。



図3. クシヒゲムラサキハマキ成虫
(前翅長 7mm)

クシヒゲムラサキハマキは、『みんなで作る日本産蛾類図鑑』というサイトによると、餌植物としてソヨゴ(モチノキ科)、アオミズ(イラクサ科)、イタドリ(タデ科)、フタリシズカ(センリョウ科)があげられていて、かなりな広食性のようです。いずれも近木川上流域に生息している植物です。ということで、シソ科のイワタバコが加わっても、不思議ではありません。

広食者のガの幼虫がたまたまイワタバコを摂食していたのか、自分がこれまで葉を巻いた巣を見逃してきただけなのか、とにかく葉をかじっている現場を押さえることが次の目標です。

引用サイト

『みんなで作る日本産蛾類図鑑』

<http://www.jpmoth.org/>

(クシヒゲムラサキハマキのページ)

http://www.jpmoth.org/Tortricidae/Tortricinae/Terricula_violetana.html

(幼虫食餌植物に関する引用文献ページ)

<http://www.jpmoth.org/book.html>

(岩崎 拓)

阪南市でのトゲナシヌマエビの記録

トゲナシヌマエビ *Caridina typus* はヌマエビ科ヒメヌマエビ属のエビで、太平洋側は千葉県以南、日本海岸では石川県以南に分布します(豊田、2019)。エビ類には眼と眼の間から前に突き出た額角^{がっかく}と呼ばれる角のような突起があり、その形状は種によって異なります。ヌマエビ科では額角の上縁にノコギリ状の歯がある種が多いのですが、トゲナシヌマエビは和名にあるように、額角が短く、その上縁には歯がないのが特徴です(図1)。

大阪府内ではこれまで泉南郡岬町において番川での2008年5月23日、2009年5月29日の採集記録(森本、2013)、茶屋川での2018年8月31日の採集記録(大阪府立泉鳥取高校フィールドワーク部による調査)がありますが、今回、阪南市のため池で採集されましたので報告します。

2020年6月27日、阪南市立貝掛中学校近くの藤谷池で、「自然と本の会」主催の観察会の際にトゲナシヌマエビ2個体がタモ網採集で記録されました。うち1個体は抱卵した雌でした(図2)。これらの標本は貝塚市立自然遊学館の所蔵標本(KCMN)として保管しました。また、同時に採れたエビとして、スジエビ(テナガエビ科)がありました。



図1. トゲナシヌマエビの額角



図2. トゲナシヌマエビ 抱卵雌
(2020年6月27日、阪南市貝掛)

トゲナシヌマエビは、河川で成長、産卵し、ふ化した幼生は流下して汽水域や海水域へ運ばれ、その後、遡上して河川で生活するという両側回遊型^{りょうそくかいゆう}の通し回遊種です。今回、本種が見つかった藤谷池は、久掘川を介して海から約1kmの地点にありますので、生息地となり得たと考えられます。

引用文献

- 豊田幸詞(2019)『日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑』、緑書房、339pp.
森本静子(2013) 番川のヌマエビ科5種の採集記録. 兵庫陸水生物 No.64:94.

(山田 浩二・河添 純子(貝塚市))

イソハエトリ

イソハエトリ *Hakka himeshimensis* は、名前の通り、海辺にいるハエトリグモだそうです。近木川河口のコンクリート護岸やテトラポットで「ふつうに」いることが分かりました。腹部のまだら模様は岩礁などの自然環境やテトラポット上では隠蔽色の効果があると思います(図1)。砂浜にもいるのかどうかは確認していません。突堤にたくさんいるのに、これまで見過ごしてきました。



図1. イソハエトリ(♀)
貝塚市澤、2020年6月24日採集、体長9mm

ついでにこの場をお借りして、もう1種のクモを紹介します。貝塚市名越の「せんごくの杜」にいたウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* です。2020年5月6日に、植栽のソメイヨシノの葉上で2個体を見ました。体長5mm、光沢のある緑色の体色と、腹部背面のウロコ状の模様が特徴です。何度か見たことがあるなと思って撮影だけで済ませたら、自然遊学館に標本がないことが分かりました。翌日にも出向きましたが、後の祭りでした。

お粗末なことに、2種とも、貝塚市のクモ目リストに含めていなかったものです。

虫屋のクモ差別はいただけないですね。

参考サイト

自然遊学館HP内の「貝塚市のクモ」のページ
<https://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/kaizuka/bunrui/kaidukasinokumo.html>

(岩崎 拓)

館長コーナー

新型コロナウイルス対策など

みなさんいかがお過ごしでしょうか？

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として実施された、長期の臨時休館措置はすでに解除され、入館者の方々をお迎えすることができるようになりました。

新型コロナウイルス感染拡大予防について

現在、当館は新型コロナウイルス感染拡大防止策として、密閉・密集・密接の3密を防ぐため、以下のことを行っています。

- ① 入り口での手指の消毒



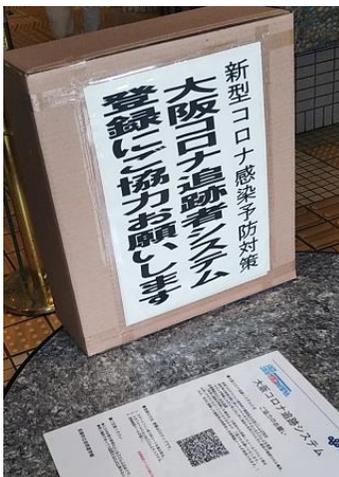
入り口に設置している手指消毒剤

- ② 換気優先の対応として玄関や非常扉などを開放（密閉解消対応）
- ③ 中央展示室までを公開とし、一部会場を未公開。さらに館内を一方通行にして公開（密集解消対応）



玄関からの左側一方通行案内の様子

- ④ 餌やり体験やガチャ玉学習、ドングリで遊ぶどんぐり砲などのコーナーの中止（密接解消対応）
- ⑤ 大阪コロナ追跡システムの導入



大阪コロナ追跡システム

館内展示更新作業について

長期休館をいただいた時から続けている展示更新作業は順調に進んでいます。

展示物の見やすさや分かりやすさを考慮し、各コーナーの見直しや新コーナーの設置を同時に行っています。

例として、ばらばらに置かれていた、鳥はく製や説明展示物を移動し、新しく鳥コーナーを設置しました。

他にも、展示物の移動や掲示資料を書きかえています。

更新作業は現在進行中のものもあり、完了までにはまだ少し時間がかかります。

ボランティアによる近木川アユ調査について

3年前から、市民の方に「近木川のアユ調査（近木川下流域）をボランティアで行いませんか？」と呼びかけを行っています。

調査時期は5月～7月と9月。

調査員の数は当館職員と合わせて7人。



2019年5月4日 近木川アユ調査の様子



2019年10月5日 近木川アユ調査の様子



2020年6月6日 捕獲アユ

毎年近木川でアユが確認されています。その数は多くありませんが、5月になると間違いなく近木川にアユがやってきていることとなります。

モンシロチョウに美味しいキャベツを

毎年、モンシロチョウが飛び交う頃、当館の裏の畑（セメントの上に人工的に作った畑）にモンシロチョウを呼び込もうということでキャベツを育てています。

キャベツの種を発芽させ大きく育てています。



2020年7月3日のキャベツの葉

『生きものだいすき』を募集しています

新型コロナウイルス感染が影響し観察活動ができない現状ですが、海の生きものなど身近な自然にすむ生きものの観察に興味を持っている方、現地で生きものを観察したいと思っている方々を募集しています。

生きものを知り、生きものへの理解を深めてみませんか？

調査はすべて自由参加ですが事前の申し込みをしていただきます。

活動内容は以下の通りです

- ・近木川の生きもの観察（アユ調査）
- ・千石荘の昆虫観察
- ・和泉葛城山や近木川・二色の浜鳥調査など。

活動日や時間など詳しい内容は自然遊学館までお問い合わせください。

興味のある方は一度お問い合わせください。

問合せ先 072-431-8457 自然遊学館

（高橋 寛幸）

 **自然生態園コーナー**

トンボの池のスゲ

自然遊学館の裏側に、1997年から4年かけて作った自然生態園があります。市民の森は、埋立地で植栽しかなかった土地です。そこに色々な生きものが来てくれるように願って、ボランティアの人々が様々な環境作りをしたのが自然生態園です。トンボのヤゴが育つように1年がかりで池を掘り、バッタの住む草地、ドングリのなる樹を植えた小山、二色浜の海浜植物を移植した砂地を作りました。

池には、貝塚市内から移植したヨシ、アンペライ、ミソハギなどが育っています。そこにトンボ、アメンボなどが飛んできます。5月には最初に移植したカサスゲの他、3種のスゲが穂をつけます。そのスゲをご紹介します。



カサスゲ

タチスゲ

カサスゲ

高さ 50～80cm、果期 4月～6月。葉が丈夫なので蓑笠を作る材料にしてきた。湿地水辺の整備により群生地が消滅しつつある。

タチスゲ

高さ 30～50cm、果期 5月頃。名前は茎と小穂が直立する様子から来ている。



ジュズスゲ

ヤワラスゲ

ジュズスゲ

高さ 30～40cm、果期 5月～6月。名前は軸に並ぶ果胞が数珠に似ているため。

ヤワラスゲ

高さ 40～50cm。果期 5月～6月。名前は全体に柔らかいので。

参考文献

谷城勝弘 (2007) 『カヤツリグサ科』、全国農村教育協会、247pp.

(湯浅 幸子)

調査速報

千石荘昆虫調査 2019

貝塚市千石荘(せんごくの杜周辺)において 2019 年 4 月から 12 月までの各月に 1 回ずつ 3 時間程度の昆虫調査(ルートセンサス)を行いました。その結果、および以前の記録との比較を報告します。

1. 大阪府レッドリスト種

いずれも準絶滅危惧のキイトンボ、ウチワヤンマ、アキアカネ(図 1)、ナツノツヅレサセコオロギを確認しました。

昨年からの違いは、ヨツボシトンボを確認できなかったことだけですが、この種は市民参加の別調査「千石荘講座」では確認されています。



図 1. アキアカネ(♀)
(トンボ目トンボ科、2019. 11. 5)

アキアカネは 11 月 5 日に 8 個体を確認し、1 調査日でこれだけの個体を確認したのは記憶にありません。それに対して、ナツアカネは 2005 年が最後の確認になっています(自然遊学館の貝塚市全体の記録では 2006 年が最後)。2011 年からのトンボ目の確認種数は、13、13、14、11、13、17、18、19、17 種と、アキアカネ同様、やや回復傾向にあるのかもしれませんが。

2. 注目種

2019 年に確認された注目種は、タイワンウチワヤンマ、マツムシ、カンタン、ショウリョウバッタモドキ、カブトムシ、ツマキチョウ、コシロシタバ、シロスジヒゲナガハナバチの 8 種でした。このうち最も

久々の確認となったのはツマキチョウとシロスジヒゲナガハナバチで、2011年以來8年ぶりに出逢えました。



図2. ツマキチョウ
(チョウ目シロチョウ科、2019. 4. 9)

昨年も「2013年を最後に確認されていない」と報告したハチモドキハナアブは、2019年も確認されませんでした。個体数もそこそこいたのに、急にいなくなった原因が分かりません。ニホンミツバチも2015年が最後の確認で、少し気がかりです。

3. その他

ウスグモスズは2011年の確認の後、6年間確認なしで、2017年から3年連続で確認されました。ミンミンゼミは9月10日に鳴き声を聞き、2011年以來8年ぶりの確認でした。もう1種、久々の確認となったのはヤノクチナガオオアブラムシで、2013年以來6年ぶりでした。

自然遊学館に標本がなかった種は、ヤツボシハナカミキリ1種だけでした(図3)。前号で紹介したオオキトンボは定期的な調査日以外での記録です。



図3. ヤツボシハナカミキリ
(コウチュウ目カミキリムシ科、2019. 5. 2)

以下、2019年調査の速報として紹介した種の確認日(月/日)を示しました。*印は幼虫での確認、その他の無印は成虫での確認です。

大阪府レッドリスト種(準絶滅危惧)

キイトンボ 6/13、7/25、8/6、9/10

ウチワヤンマ 6/13、7/25、8/6

アキアカネ 11/5

ナツノツヅレサセコオロギ 6/13、7/25

注目種

タイワンウチワヤンマ 7/25、8/6

マツムシ 10/8

カンタン 10/8、11/5

ショウリョウバッタモドキ 11/5

カブトムシ 4/9*、7/25

ツマキチョウ 4/9

コシロシタバ 9/10

シロスジヒゲナガハナバチ 4/9

自然遊学館に標本がなかった種

ヤツボシハナカミキリ 5/2

引用文献

大阪府(2014) 『大阪府レッドリスト2014』、48pp.

(岩崎 拓)

寄贈標本

<鳥類>

◆覚野良子さんより

カケス 巣立ち雛、死体1点
(+画像6枚)

貝塚市蕎原 2020年5月23日採集
(同定:和田岳さん)

◆松下宏幸さんより

カワラヒワ 死体1点
貝塚市近木川河口

2020年6月20日採集

◆西田京太郎さんより

スズメ 卵1個

貝塚市東山 2020年6月2日採集

<爬虫類>

◆竹内ほのかさんより

ミシシippアカミミガメ 生体1点

貝塚市二色の浜 2020年6月4日採集

<魚類>

◆森樹雄さんより

ミミズハゼ 生体2点

ニホンウナギ幼体 生体8点

ヨシノボリ類 生体2点

貝塚市近木川下流 2020年5月21日採集

<軟体動物>

◆児嶋恭平さんより

ナシジダカラ 打ち上げ1点

貝塚市二色の浜 2020年2月24日採集

◆丸山幸代さんより

アオリイカ卵塊 打ち上げ1点

フクレユキミノ 打ち上げ2点

貝塚市二色の浜 2020年5月20日採集

◆澤田 陽さんより

イズミドリガイ 2点

岸和田市阪南2区 2020年5月25日採集

◆河添純子さんより

ヒメカノコアサリ 1点

阪南市西鳥取漁港の西側浜
2020年6月5日採集

<節足動物>

◆森樹雄さんより

モクズガニ 生体3点

スジエビ 生体2点

テナガエビ 生体1点

ヒラテテナガエビ 生体1点

ミゾレヌマエビ 生体3点

貝塚市近木川下流 2020年5月21日採集

◆和田太一さんより

フジテガニ 4点

オオサカドロソコエビ 3点

岬町吹飯浦 2020年5月22日採集

オキヒラシイノミガイ 2点

シイノミミミガイ 2点

熊本県 2020年6月6日採集

◆河添純子さんより

トラノオガニ 1点

阪南市せんなん里海公園

2020年5月23日採集

スネナガイソガニ 1点

カネココブシ 1点

エビジャコ属 2点

阪南市西鳥取漁港の西側浜

2020年6月5日採集

ヨツハモガニ 1点

岬町長松海岸

2020年6月24日採集

トゲナシヌマエビ 2点

カワリヌマエビ属 2点

阪南市貝掛 2020年6月27日採集

◆覚野信行さんより

イソヨコバサミ 1点

和歌山市加太 2020年6月21日採集

<昆虫>

◆大橋良子さんより

ウンモンズズメ 成虫1点

貝塚市千石荘 2020年5月7日採集

◆河添純子さんより

ヨツモンカメノコハムシ 成虫3点

貝塚市橋本 2020年5月21日採集

ヨツモンカメノコハムシ 成虫10点

ヨモギハムシ 成虫1点

ナナホシテントウ 成虫1点

貝塚市三ツ松 2020年5月29日採集

ヨツモンカメノコハムシ 成虫1点

岬町淡輪 2020年6月9日採集

ヨツモンカメノコハムシ 幼虫2点

熊取町大久保南 2020年6月15日採集

ヨツモンカメノコハムシ 脱皮殻2点

貝塚市麻生中 2020年6月18日採集

◆福島秀人さんより

ゴマダラカミキリ 成虫1点

貝塚市二色 2020年5月27日採集

◆常道武士さんより

クルマスズメ 成虫1点

岸和田市西之内町 2020年6月3日採集

ウメスカシクロバ 成虫2点

貝塚市澤 2020年6月7日採集

ハマオモトヨトウ 幼虫6点

貝塚市澤 2020年6月11日採集

セスジスズメ 幼虫1点

貝塚市澤 2020年6月13日採集

◆藤村雅志さんより

エゾトンボ 羽化殻1点

貝塚市名越 2020年6月9日採集

◆西岡諒・西岡なおこさんより

ヒゲブトハムシダマシ 成虫1点

(同定：澤田義弘さん)

オオコフキコガネ 成虫1点

貝塚市澤 2020年6月28日採集

<寄贈写真>

◆覚野良子さんより

ザイフリボク 1点

貝塚市柵谷一太川

2020年4月11日撮影

ブナ 2点

ウスゲクロモジ 2点

アナグマ 1点

和泉葛城山 2020年4月26日撮影

カケス 1点

和泉葛城山 2020年5月4日撮影

ミヤマウグイスカグラ 5点

ミヤコザサ 2点

センボンヤリ 1点

オオルリ 1点

和泉葛城山 2020年5月5日撮影



ミヤマウグイスカグラ

(和泉葛城山 2020年5月5日 覚野良子さん撮影)

キンラン 1点
 貝塚市蕎原 2020年5月6日撮影
 ミヤコザサ(花穂) 1点
 和泉葛城山 2020年5月17日撮影
 ホソミオツネトンボ 成虫1点
 貝塚市秋山川 2020年5月24日撮影
 ブナ(果実) 1点
 ヤブデマリ 4枚
 オオアカゲラ 1点
 ミヤコザサ(花穂) 1点
 和泉葛城山 2020年5月24日撮影



ヤブデマリ

(和泉葛城山 2020年5月24日 覚野良子さん撮影)

ソクシンラン 3枚
 貝塚市蕎原 2020年6月7日撮影
 ムラサキクシヒゲハマキ 1枚

和泉葛城山 2020年6月7日撮影
 フデリンドウ 2枚

和泉葛城山 2020年6月14日撮影

◆五藤武史さんより

クロスジホソサジヨコバイ 成虫1枚
 高石市高師浜 2020年4月20日撮影

◆秋武仁志さんより

イソシギ 1枚
 岸和田市久米田池 2020年1月13日撮影
 アリスイ 1枚

貝塚市近木川 2020年2月11日撮影

トラフトンボ 成虫7枚

貝塚市馬場 2020年4月29日撮影

シオヤトンボ 成虫2枚

貝塚市馬場 2020年4月30日撮影

トラフトンボ 成虫1枚

シオヤトンボ 成虫1枚

貝塚市馬場 2020年5月2日撮影

ホソミイトトンボ 成虫1枚

貝塚市馬場 2020年5月4日撮影

アカエリヒレアシシギ 1枚

貝塚市馬場 2020年5月17日撮影



アカエリヒレアシシギ

(貝塚市馬場 2020年5月17日 秋武仁志さん撮影)

ヤマサナエ 成虫1枚

貝塚市馬場 2020年6月3日撮影

◆食野俊男さんより

キジバト 雛1枚

貝塚市近木 2020年5月4日撮影

◆北田誠さんより

キンラン 1枚

オグマサナエ 成虫1枚

貝塚市蕎原 2020年5月14日撮影

◆藤村雅志さんより

トウネン 2枚

(コウイカ類の卵を摂食中)

貝塚市二色の浜 2020年5月22日撮影

ソリハシシギ 3枚

(アナジャコを摂食中)

泉南市樫井川河口 2020年5月22日撮影



アナジャコをくわえたソリハシシギ
(泉南市樫井川河口 2020年5月22日
藤村雅志撮影)

◆河添純子さんより

ヨツモンカメノコハムシ食痕など 4枚

泉南市信達大苗代 2020年6月9日撮影

ヨツモンカメノコハムシ食痕など 4枚

岬町淡輪 2020年6月9日撮影

ヨツモンカメノコハムシ幼虫など 2枚

泉南市信達大苗代 2020年6月23日撮影

ヨツモンカメノコハムシ成虫など 4枚

阪南市自然田 2020年6月25日撮影

<展示用>

◆竹田壮汰さんより

キンギョ (和金) 2点

飼育品 (2019年より)

◆森田紳平さんより

オオクワガタ・ヒラタクワガタ・コクワ
ガタ・ノコギリクワガタ 多数

2020年6月20日寄贈

 スタッフ日誌

4月8日、新型コロナウイルスの緊急事態宣言を受けて、臨時休館となり、その後5月16日の再開まで休みが続きました。来館予定の皆様にはご不便をおかけしました。その間、中で働くスタッフは休んでいたわけではなく、飼育生物の世話や標本整理、展示の見直しなど、普段の業務や普段なかなか取り掛かれない業務に毎日取り組みました。(スタッフ一同)

6月4日、和泉葛城山の山頂トイレ前広場で、テングチョウを300個体ほど見ました。ほとんどはトイレの壁に止まり、残りは焚火の後の炭に集まっていました。月1回の調査ですが、毎年6月が中心で、個体数が増加傾向にあるのは間違いありません。ただ、2014年の大発生の際は、馬場、梶谷、阪和道でも群集を見たという情報を頂いたのですが、今年はそういうことはありませんでした。(岩)

6月28日、二色の浜でボーイスカウト貝塚第2団の皆さんと地曳網を行いました。クロダイやヘダイの幼魚、トウゴロウイワシなど多くの魚が獲れましたが、皆さんが1番驚かれたのは、蒲焼きサイズのニホンウナギが3匹獲れたことでした。(山)

 お知らせ

夏期特別展

「上久保文貴 植物標本コレクション」
②－和泉葛城山周辺の植物」
開催中！！

2020年夏期特別展「うぶくび ぶんき上久保文貴 植物標本コレクション②－
和泉葛城山周辺の植物」

自然遊学館の元館長、故 上久保文貴先生が収集・寄贈された植物標本 6,723 点の中から、
和泉葛城山周辺で採集された標本を40点を展示します。



開催場所：貝塚市立自然遊学館多目的室、貝塚市二色3丁目26-1、Tel. 072-431-8457
開催期間：2020年 7月25日(日)～ 8月30日(日)

火曜日休館、平日は午前9時～午後5時、土・日曜日は午前9時～午後7時半、申込不要

場所：自然遊学館多目的室

期間：8月30日まで、火曜日休館

自然遊学館だより 2020 夏号 (No. 96)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/sizenyugakukan>

発行日 2020. 8. 5

この小冊子は庁内印刷で作成しています。